ドイツにおけるイタリア簿記の発展(Ⅲ)

― Goessens, Passchier 1594年 ―

土　方　　久

本稿は「ドイツにおけるイタリア簿記の発展」と題する論文の後段である。前段は本誌(『商学論集』(西南学院大学),52巻1号)に,中段は本誌(『商学論集』(西南学院大学),52巻2号)に公表したところである。複式簿記としては,ドイツに移入されることによって,イタリア簿記は,はたして発展されたか,発展されたのはどこかについて,1594年にGoessens, Passchierによって出版された印刷本『イタリア人の技法に拠る簡明な簿記』を解明して,筆者なりの卑見を披瀝することにしたい。

2．帳簿締切

さて,帳簿締切についてである。企業の開始日は1月1日,決算日は12月31日。したがって,まさに「年度決算」が採用される。事実,帳簿締切までに,実際に勘定が締切られるのは,まずは,(1)勘定の余白がなくなって,新しい勘定に振替えられる場合だけである。さらに,(2)商品が完売されて,X商品,Y商品に区別する商品勘定が締切られる場合には,帳簿締切として,実際に勘定が締切られる。もちろん,帳簿締切として,実際に帳簿が締切られるのは,最後に,(3)帳簿全体が更新されて,企業の決算時に,新しい帳簿に振替えられて,翌期に繰越される場合である。

まずは,(1)勘定の余白がなくなると,新しい勘定に振替えられる。Goessensは表現する。「ある一つの勘定が,これ以上は転記されないほどに一杯になると,借方の面であろうと貸方の面であろうと,この勘定の残高を計算して,一方の面が他方の面よりも多いなら,残高は少ないほうの面に記録する。

それから，新しい勘定には，これに相応する面に振替えられる」[43] と。

しかし，Goessens自身，例示するように，振替えられる場合には，仕訳帳に記録されることはない。したがって，仕訳帳から元帳に転記されることはない。余白のなくなった勘定から新しい勘定に直接に振替えられるだけである。

そこで，Goessensは表現する。たとえば，現金勘定（丁数１）の余白がなくなると，「現金残高」が計算されて，現金勘定（丁数１）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「現金は貸方（現金は持つべし＝私に貸している）(Cassa Sol haben)」と記録されるので，
この下の欄に「９月30日。相手 これ自体。新しい勘定に振替（Adi 30 Sepemb. Per sich selbst / ubergetragen auff ein Nyen Conto)」[44]，
新しい現金勘定（丁数32）の借方の面に記録するのは，冒頭の欄に「現金は借方（現金は支払うべし＝私に借りている)」と記録されるので，
この下の欄に「９月30日。相手 これ自体。ここに振替（Adi 30 Septembr. Per sich selbst Alhie ubergetragen)」[45] と。

もちろん，振替えられると，現金勘定（丁数１）では，借方の面と貸方の面の合計が判明しないので，両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られる。

さらに，(2)商品が完売されると，Ｘ商品，Ｙ商品に区別する商品勘定は「口別損益」である商品売買益または商品売買損を計算して締切られる。Goessens自身，例示するように，振替えられる帳簿（丁数14）の冒頭の欄，左側，借方の面に「損益は借方（損益は支払うべし＝私に借りている）(Gewin und Verlust Soll)」，右側，貸方の面には「損益は貸方（損益は持つべし＝私に貸している）(Gewin und Verlust Soll haben」と記録して開設されるので，振替えられるのは「損益勘定」であるにちがいない。

43）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, S. 46（Jornal）.
　なお，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，46Seiteと表現する。
44）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. １R（Haubtbuch）. 括弧内は筆者。
　なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，１Blattの右側の面Rechtと表現する。
45）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 32L（Haubtbuch）. 括弧内は筆者。
　なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，32Blattの左側の面Linkeと表現する。

しかも，Goessens自身，例示するように，振替えられる場合には，仕訳帳に記録される。仕訳帳から元帳に転記されて，損益勘定に振替えられる。

そこで，Goessensは表現する。たとえば，絹織物が完売されて，「商品売買益」が計算されると，取引番号314として，仕訳帳（頁数44）に「(振替えられる）多数の項目（Mehrerley Debitores）は借方。金額（合計)。相手 損益」，「(多数の項目は）以下のとおり（Wie folgt)」，多数の項目の内訳としては，この行の下に「絹織物は借方)」[46] と記録する。元帳に転記されると，絹織物勘定（丁数８）の借方の面に記録するのは，冒頭の欄に「絹織物は借方（絹織物は支払うべし＝私に借りている)」と記録されるので，
この欄の下に「12月31日。相手 損益。利益を得ている（Adi Ul. December. Per Gewin und verlust gewunnen)」[47]，
損益勘定（丁数14）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「損益は貸方（損益は持つべし＝私に貸している)」と記録されるので，
この欄の下に「12月31日。相手 絹織物（Adi Ul. Decemb. Per Seyde)」[48] と。

したがって，商品が完売されて，「口別損益」である商品売買益または商品売買損が計算されると，「決算日」，企業の決算時に損益勘定に振替えられて，Ｘ商品，Ｙ商品に区別する商品勘定は締切られる[49]。絹織物勘定（丁数８）で

46）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, S. 44（Jornal）．括弧内は筆者。
なお，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，44Seiteと表現する。
絹織物勘定（丁数８）では，完売日は２月25日。振替日は完売日ではなく，決算日の12月31日である。
「多数の項目」という表現，さらに，「６項目」という表現は今日の「諸口」を意味する。「以下のとおり」と記録して，多数の項目，さらに，６項目の内訳がその下の行に記録されるからである。
参照，小島男佐夫著；前掲書，140頁。

47）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 8L（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，８Blattの左側の面Linkeと表現する。

48）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 14R（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，14Blattの右側の面Rechtと表現する。

49）敷布団勘定（丁数５）では，完売日は11月20日。バレンシァ産の刷毛（丁数５）では，完売日は３月24日。天鵞絨勘定（丁数５）では，完売日は11月１日。フローレンス産の綾織物勘定（丁数７）では，完売日は７月８日。ブラウンシュヴァイク産の毛織物勘定（丁数18）では，完売日は９月12日。しかし，いずれも，振替日は完売日ではなく，決算日の12月31日である。
また，個人出資としての「ルンドラへの旅商」勘定（丁数29）では，完了日は10月24日。

は，借方の面と貸方の面の合計が判明しないので，両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られる。

しかし，商品が完売されると，都度，損益勘定に振替えられて，X商品，Y商品に区別する商品勘定が締切られるのではない。帳簿締切として，実際に帳簿が締切られる，帳簿全体が更新される場合と同様に，企業の決算時に損益勘定に振替えられて，X商品，Y商品に区別する商品勘定は締切られる。まさに帳簿締切として，実際に勘定が締切られる。

最後に，(3)帳簿全体が更新されて，企業の決算時に，新しい帳簿に振替えられて，翌期に繰越される。まずは，帳簿全体の更新前に，「帳簿の突合」(Skontro）によって，「帳簿記録」に過誤のないことが検証しておかれねばならない。Goessensは表現する。「帳簿が締切られて，残高が計算される場合には，事前に，それぞれの項目が仕訳帳と突合わされねばならない。繰越されるのに，脱漏されるか，過大に記録されて，間違いがあるなら，精確に計算されねばならない。一つの項目，二つの項目，三つの項目が過大に記録されているなら，これを消去したり，抹消してはならず，改めて勘定の反対側の面に記録して，控除されねばならない。それぞれの項目が合計されて，間違いがあるなら，したがって，６であるのに16，18であるのに８，このように記録されているなら，消去するのではなく，勘定の反対側の面に加算するか減算しなければならない。帳簿は，常時，必要とする場合に証明しうるように，可能なかぎり虚偽がなく，精確にしておかれねばならない。そのようになるには，すべてを正確にして，間違いが訂正されるなら，なおさらである。それから，それぞれの項目が締切られる」[50] と。

したがって，仕訳帳の左端の元丁欄には，転記される元帳の丁数，「元丁」

「フランクフルトへの旅商」勘定（丁数30）では，完了日は10月10日。「ライプツィヒへの旅商」勘定（丁数33）では，完了日は12月10日。これまた，いずれも，振替日は完了日ではなく，決算日の12月31日である。

しかし，共同出資としての「リスボンへの旅商」勘定（丁数27）では，完了日が８月31日，振替日は11月19日。「フランクフルトへの旅商」勘定（丁数29）では，完了日は10月10日，振替日は11月10日。したがって，いずれも，振替日は決算日ではない。しかし，共同出資であるかぎりでは，決算日を待たずに利益分配されてしまうからではなかろうか。

50）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, S. 46（Jornal）.

なお，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，46Seiteと表現する。

が記録されるので，仕訳帳から元帳が照合されねばなるまい。また，元帳の左側の取引番号欄には，転記された仕訳帳の丁数，「仕丁」が記録されると同様に，転記された仕訳帳に記録される「取引番号」が記録されるので，これとは反対に，元帳から仕訳帳も照合されねばなるまい。さらに，元帳の摘要欄の右側の元丁欄には，その相手勘定の丁数，「元丁」が記録されるので，元帳に記録される勘定から相手勘定が照合されねばなるまい。

ところが，勘定の余白がなくなって，新しい勘定に振替えられる場合には，仕訳帳に記録されることはない。したがって，元帳の摘要欄の右側の元丁欄には，その相手勘定の丁数，「元丁」が記録されるので，元帳に記録される勘定から相手勘定が照合されねばなるまい。

このように，帳簿全体の更新前に，帳簿記録に過誤のないことが検証されると，帳簿全体の更新時，企業の決算時に「残高勘定」が開設される。Goessens自身，例示するように，振替えられる帳簿（丁数36）の冒頭の欄，左側，借方の面に「残高は借方（残高は支払うべし＝私に借りている(Bilantzo Sol)」，右側，貸方の面には「残高は貸方（残高は持つべし＝私に貸している）(Bilantzo Soll haben)」と記録して開設されるので，振替えられるのは「残高勘定」(Bilanzkonto）であるにちがいない。

しかも，Goessens自身，例示するように，振替えられる場合には，仕訳帳に記録される。したがって，仕訳帳から元帳に転記されて，残高勘定に振替えられる。

本来，帳簿全体が更新されるのは，帳簿全体が一杯になってしまい，Goessens自身，例示するように，Aの標識を付される帳簿から新しい帳簿，Bの標識を付される帳簿に振替えられる場合である[51)]。「口別損益計算」(Erfolgsrechnung an die Partien）の域に留まるかぎりでは，Aの標識を付される帳簿，X商品，Y商品に区別する商品勘定の借方の面に記録される「商品の仕入」，貸方の面に記録される「商品の売上」は，商品が完売されないなら，

51）Vgl., Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 37R（Haubtbuch).
なお，丁数が打たれてないので，筆者が便宜的に，Aの標識を付される帳簿，「元帳」に打たれた丁数36の裏側に打った丁数37Blattの右側の面Rechteと表現する。

Bの標識を付される帳簿，X商品，Y商品に区別する商品勘定に振替えられて，借方の面には「商品の仕入」，貸方の面には「商品の売上」が，そのまま記録されるかもしれない。翌期に商品売買益または商品売買損の「口別損益」を計算するにしても，どれだけ仕入れたか，どれだけ売上げたかまで認識しようとするなら，このように振替えられるしかないからである。しかし，翌期に商品売買益または商品売買損の「口別損益」を計算するだけであるなら，商品勘定の借方の面と貸方の面の差額が振替えられるだけでもかまわない。

しかし，「期間損益計算」(Periodenerfolgsrechnung）に移行すると，そうではない。Goessensは表現する。「売残商品については，残高が計算，価額が見積られて（was für Wahrn noch unverkaufft Restieren / dieselben was sie werth sein AEstimieren)，『残高（勘定)』に記録される。商品勘定の一方の面を他方の面から控除すると，その残高は『損益勘定』に記録される。旅商勘定，家事費勘定についても同様。損益（勘定）から残高が計算されると，この残高は『資本金勘定』に振替えられる。資本金勘定を経由して，『残高（勘定)』に振替えられる。元帳の借方の面または貸方の面に記録される，これ以外の勘定についても同様。残高（勘定）に記録されてしまうと，借方の面と貸方の面は締切られて，均等にならねばならない」[52] と。

したがって，商品が完売されないなら，帳簿棚卸ではあるが，「期末棚卸」が導入される。Aの標識を付される帳簿，X商品，Y商品に区別する商品勘定の貸方の面に，「売残商品」である繰越商品の商品残高を追加，記録することによって，「期間の口別損益」である商品売買益または商品売買損が計算される。商品が完売されて，口別損益である商品売買益または商品売買損を計算するのと同様に，「決算日」，企業の決算時に損益勘定に振替えられて，X商品，

52）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, S. 46（Jornal）．二重括弧および括弧内は筆者。
なお，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，46Seiteと表現する。
ここに，「価額が見積られて」と表現することから，企業の決算日に「時価」で評価されると速断されるかもしれない。しかし，Goessens自身，例示するように，ハンガリー産の銅勘定（丁数31）では，繰越商品は「取得原価」で計算される。
実際には，家事費勘定が開設されることはない。「家事の諸掛り経費」(Unkosten von Hauphalten)，「商品の諸掛り経費」(Unkosten von meinen eigenen Kauffhandel）は直接に損益勘定に記録される。

Y商品に区別する商品勘定は締切られる。

そこで，Goessensは表現する。たとえば，ハンガリー産の銅の「商品残高」を追加，記録することによって，「商品売買益」が計算されると，取引番号314として，仕訳帳（頁数44）に「(振替えられる）多数の項目は借方。金額（合計)。相手 損益」,「(多数の項目は）以下のとおり」，多数の項目の内訳としては，この行の下に「ハンガリー産の銅は借方」[46] と記録する。元帳に転記されると，ハンガリー産の銅勘定（丁数31）の借方の面に記録するのは，冒頭の欄に「ハンガリー産の銅は借方（ハンガリー産の銅は支払うべし＝私に借りている)」と記録されるので，

この下の欄に「12月31日。相手 損益（Adi Ul. Decembr. Per Gewinn und Verlust)」[53]，

損益勘定（丁数14）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「損益は貸方（損益は持つべし＝私に貸している)」と記録されるので，

この下の欄に「12月31日。相手 ハンガリー産の銅（Adi Ul. Decemb. Per Ungerische Kuffer)」[48] と。

これに対して，「商品残高」を追加，記録するには，取引番号317として，仕訳帳（頁数46）に「このAの標識を付される帳簿の残高は借方。金額（合計)。相手 以下の19項目（nachfolgende 19. Debitores)」,「(19項目は）以下のとおり（Wie hernach folgt)」，19項目の内訳としては，この下の行に「相手 ハンガリー産の銅」[54] と記録する。元帳に転記されると，ハンガリー産の銅勘定（丁数31）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「ハンガリー産の銅は貸方（ハンガリー産の銅は持つべし＝私に貸している）(Ungrich Kupffer Sol haben)」と記録されるので，

この下の欄に「12月31日。相手 このAの標識を付される帳簿の残高（Adi Ul.

53）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 31L（Haubtbuch）. 括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，31Blattの左側の面Linkeと表現する。

54）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, S.46（45）(Jornal). 括弧内は筆者。
なお，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，46Seiteと表現するが，45Seiteの誤植。
「19の項目」という表現も今日の「諸口」を意味する。「以下のとおり」と記録して，19項目の内訳がその下の行に記録されるからである。
参照，小島男佐夫著；前掲書，140頁。

Decemb. Per Bilantz dieser Bücher No.A.)」[55],
残高勘定（丁数36）の借方の面に記録するのは，冒頭の欄に「残高は借方（残高は支払うべし＝私に借りている」と記録されるので，
この下の欄に「12月31日。相手 ハンガリー産の銅（Adi Ul. Decembr. Per Ungerisch Kupffer)」[56] と。

もちろん，振替えられると，ハンガリー産の銅勘定（丁数31）では，借方の面と貸方の面の合計が判明しないので，両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られる。

ところで，「損益勘定」についてである。Goessens自身，例示するように，たとえば，受取手数料，受取利息の利益（収益）については，手数料勘定，利息勘定に記録されずに，直接に損益勘定に記録されるので，損益勘定の貸方の面に振替えられることはない。最終的に損益勘定に集合されることはないのである。たとえば，諸掛り経費，支払手数料，支払利息の損失（費用）についても同様。諸掛り経費勘定，手数料勘定，利息勘定に記録されずに，直接に損益勘定に記録されるので，損益勘定の借方の面に振替えられることはない。これまた，最終的に損益勘定に集合されることはないのである。したがって，振替えられる商品売買益または商品売買損はもちろん，利益（収益）および損失（費用）が直接に記録される損益勘定には，「期間損益」である純利益または純損失が計算される。「損益（勘定）から残高が計算される」，この「残高」こそは期間利益または期間損失である。

したがって，Goessens自身，表現するように，「損益（勘定）から残高が計算されると，この残高は『資本金勘定』に振替えられる。資本金勘定を経由し

55）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 31R（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，31Blattの右側の面Rechtと表現する。

56）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 36L（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，36Blattの左側の面Linkeと表現する。
売残商品である繰越商品を追加，記録して，残高勘定に振替えられるのは，決算日の12月31日ではあるが，「取引番号は317」。商品売買益を計算して損益勘定に振替えられるのも，決算日の12月31日ではあるが，「取引番号は314」である。想像するに，損益勘定に振替えられてから，残高勘定に振替えられる順序を説明しようとするのかもしれない。そのためか，損益勘定に計算される期間利益が資本金勘定に振替えられるのも，決算日の12月31日ではあるが，「取引番号は315」である。

て，『残高（勘定)』に振替えられる」。しかし，資本金勘定を経由するのが，なぜかとなると，Goessens自身，全く解説してはいない。想像するに，債務勘定としての「資本主勘定」が開設されるかぎりでは，利益（収益）は資本主が享受する権利，したがって，資本主に対しては，最終的に「債務の発生」として，これに対して，損失（費用）は資本主が負担する義務，したがって，資本主に対しては，最終的に「債務の消滅」として，直接に資本主勘定に振替えられることも可能ではある。しかし，「資本金」自体は，利息を生み出す「元金」，利益を生みだす「元本」として，企業にとって固有の意味を持つので，「資本金勘定」が開設されるかぎりでは，「損益勘定」は資本金勘定からは独立して開設される。「資本金」自体が企業にとって固有の意味を持つからこそ，商品売買益または商品売買損も，これまた，元本に対する「資本の増加」または「資本の減少」として，まずは，資本金勘定からは独立して開設される「損益勘定」に振替えられるにちがいない。したがって，損益勘定に計算される「期間損益」である純利益または純損失は，元本に対する「資本の増加」または「資本の減少」として，最終的に資本金勘定に振替えられるのではなかろうか。

そこで，Goessensは表現する。たとえば，「期間利益」が計算されると，取引番号315として，仕訳帳（頁数44）に「損益は借方。金額。相手 資本金」[46)]と記録する。元帳に転記されると，損益勘定（丁数14）の借方に記録するのは，冒頭の欄に「損益は借方（損益は支払うべし＝私に借りている)」と記録されるので，

この欄の下に「12月31日。相手 資本金。この勘定の残高だけ利益を得ている（Ady Ult. Decemb. Per Capitall / Umb so viel gewunnen Per saldo dieser Conto）[57)]，

資本金勘定（丁数２）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「資本金は貸方（資本金は持つべし＝私に貸している)」と記録されるので，

この欄の下に「12月31日。相手 損益。同月同日に利益を得ている」（Adi Ul. Decembr. Per Gewin und Verlust / Diß auff Dato Gewunnen)」[25)] と。

57）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 14L（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，14Blattの左側の面Linkeと表現する。

もちろん，振替えられると，損益勘定（丁数14）では，借方の面と貸方の面の合計が判明しないので，両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られる。

これに対して，「資本金勘定を経由して，『残高（勘定)』に振替えられる」ので，「資本金残高」が計算されると，取引番号316として，仕訳帳（頁数44）に「(振替えられる）以下の６項目（Nachfolgende 6. Creditores）は借方。金額（合計)。相手 残高」，「(６項目は）以下のとおり」，６項目の内訳としては，この下の行に「資本金は借方」[46] と記録する。元帳に転記されると，資本金勘定（丁数２）の借方の面に記録するのは，冒頭の欄に「資本金は借方（資本金は支払うべし＝私に借りている)」と記録されるので，
この欄の下に「12月31日。相手 このAの標識を付される帳簿の残高（Adi Ul. Decembr. Per Bilantzo dieser Bücher No.A.)」，
残高勘定（丁数36）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「残高は貸方（残高は持つべし＝私に貸している)」と記録されるので，
この欄の下に「12月31日。相手 資本金（Adi Ul. Decemb. Per Capital)」[58] と。

もちろん，振替えられると，資本金勘定（丁数２）では，借方の面と貸方の面の合計が判明しないので，両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られる。

さらに，債権者Ｃ，債権者Ｄに区別する債務を記録する人名勘定に計算される「債務残高」も同様。取引番号316として，「以下の６項目は借方」と記録される仕訳帳（頁数44）から元帳に転記されて，「債務残高」も残高勘定（丁数36）の貸方の面に振替えられる。

これに対して，残高勘定の借方の面には，すでに，ハンガリー産の銅の勘定（丁数31）に追加，記録される「商品残高」が振替えられるが，債務者Ａ，債務者Ｂに区別する債権を記録する人名勘定に計算される「債権残高」も同様。現金勘定に計算される「現金残高」も同様。取引番号317として，「以下の19項目は貸方」と記録される仕訳帳（頁数45）から元帳に転記されて，「債権残高」，

58）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 36R（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
　なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，36Blattの右側の面Rechtと表現する。

「現金残高」も残高勘定（丁数36）の借方の面に振替えられる。

たとえば，現金残高が計算されると，Goessensは表現する。取引番号317として，仕訳帳に「このAの標識を付される帳簿の残高は借方。金額（合計）。相手 以下の19項目」，「(19項目は）以下のとおり」，19項目の内訳としては，その行の下に「相手 現金」[54] と記録する。元帳に転記されると，現金勘定（丁数32）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「現金は貸方（現金は持つべし＝私に貸している)」と記録されるので，
この欄の下に「12月31日。相手 このAの標識を付される帳簿の残高（Adi Ul. Decembr. Per Bilantzo dieser Bücher No.A.)」[59]，
残高勘定（丁数36）の借方の面に記録するのは，冒頭の欄に「残高は借方（残高は支払うべし＝私に借りている)」と記録されるので，
この欄の下に「12月31日。現金は貸方（Adi Ul. Decembr. Per Cassa)」[56] と。

もちろん，振替えられると，現金勘定（丁数32）では，借方の面と貸方の面の合計が判明しないので，両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られる。

そこで，「残高勘定」についてである。Goessensは表現する。「残高（勘定）に振替えられてしまうと，借方の面と貸方の面は締切られて，均等にならねばならない。しかし，両面の項目が合計されて，均等にならないなら，さらに，項目ごとに，元帳に仕訳帳が突合わされねばならない。間違いが見出されまで探索しなければならない。そうすることによって，残高（勘定）は均衡して，完全に均等になる。帳簿に記録する者が勤勉であるなら，そのようなことは容易に回避しうる。専門家がずさんに帳簿を管理するところでは，無駄な努力と作業がそれだけ多い。誠実であるように警告したい」[52] と。

本来，帳簿の見開きの両面の左右対照に，日々の取引事象の金額，同額が記録して転記されるので，常時，帳簿の見開きの左側，借方の面に記録される合計と右側，貸方の面に記録される合計が一致する「貸借平均原理」が保証されるはずである。貸借平均原理が保証されるかぎりでは，残高勘定に振替えられ

59）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl. 32R（Haubtbuch）．括弧内は筆者。
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，32Blattの右側の面Rechtと表現する。

ても，借方の面と貸方の面の合計は一致するはずである。したがって，借方の面と貸方の面の合計が一致しないとしたら，帳簿記録ばかりか，「帳簿締切」に過誤があるものと判断しなければならない。

もちろん，帳簿記録の過誤，帳簿締切の過誤は探索して訂正されねばならない。そのために，帳簿全体の更新時，「決算日」に，改めて「帳簿の突合」によって，「残高（勘定）は均衡して，完全に均等になる」ようにしなければならないわけである。したがって，残高勘定（丁数36）では，借方と貸方の両面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られることによって，帳簿記録ばかりか，「帳簿締切」に過誤のないことが検証されるわけである。図15を参照。

それでは，残高勘定を経由して，どのように翌期に繰越されるであろうか。Goessensは表現する。「Bの標識を付される元帳には，『１対になる残高（勘定）(doppelte Bilantz)』が作成される。この１対になる残高（勘定）によっては，Aの標識を付される丁数，『A元丁（Buchstab A)』と，Bの標識を付される丁数，『B元丁（Buchstab B)』を記録されて，古いほうの残高（勘定）のすべての項目が新しい元帳に振替えられる。A元丁は古くなった元帳の丁数である。B元丁は，同様の項目が新しい元帳の借方（債務者）の面または貸方（債権者）の面に振替えられる丁数である」[60)]。そのために，「新しい帳簿を開始しようとすると，Aの標識を付される仕訳帳に，期末棚卸（Inventario）によって記録されるのと同様に，新しい仕訳帳，Bの標識を付される仕訳帳には，最初から項目ごとに残高（勘定）を記録する。まずは，現金勘定が記録される。それから，資本金勘定が記録される。これ以外の項目も，Aの標識を付される仕訳帳に記録される順序で記録される」[60)] と。

したがって，翌期の開始時には，企業の決算時に開設される残高勘定に対して，これと「１対になる残高勘定」が開設される。「残高勘定」が開設される

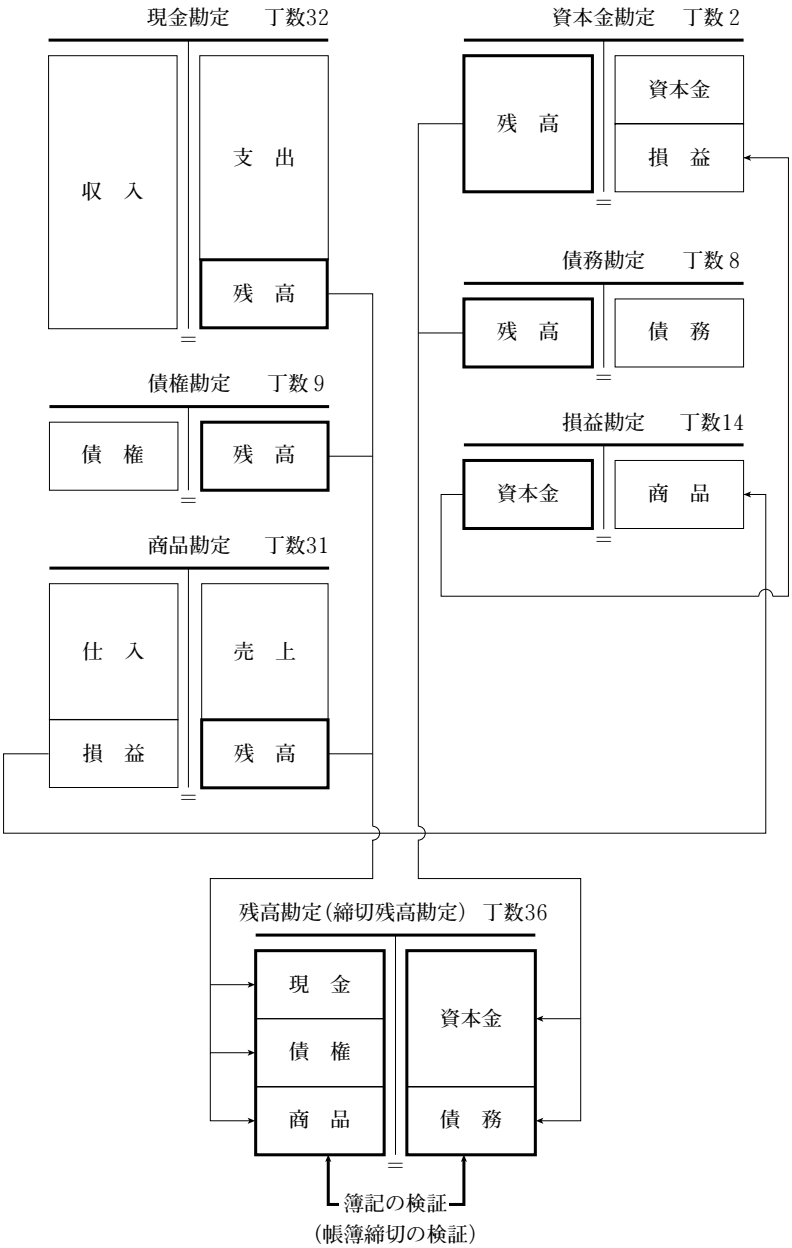
60）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, Bl.37R（Haubtbuch）. 二重括弧および括弧内は筆者。
なお，丁数が打たれてないので，筆者が便宜的に，Aの標識を付される帳簿，「元帳」に打たれた丁数36の裏側に打った丁数37Blattの右側の面Rechteと表現する。
ここに，「期末棚卸」と表現することから，「実地棚卸」によって記録されると速断されるかもしれない。しかし，Goessens自身，例示するように，ハンガリー産の銅勘定（丁数31）では，「帳簿棚卸」によって記録される。

が，翌期に残高勘定から振替えられること自体が省略されることはない。実は「締切残高勘定」と「開始残高勘定」という表現は見出されないが，帳簿全体が更新されて，企業の決算時に，締切残高勘定に振替えられるのに対して，翌期には，開始残高勘定から振替えられて，新しい帳簿に繰越される。まさに残高勘定を経由して，翌期に繰越されるのである。したがって，「企業の決算時に勘定を締切って，勘定を再開始する手法は，過度に複雑である」と，Fogoが表現すること自体，まさに不可解。想像するに，改めて「１対になる残高勘定」が開設されて，仕訳帳から転記されることだけで，それほど評価されることがないとしたら，これまた，的を得てはいない。

そこで，Goessensの例示する「締切残高勘定」の様式としては，取引番号欄，日付欄，摘要欄，元丁欄，金額欄は罫線を引いて区分されるが，「開始残高勘定」の様式としては，元丁欄が，さらに，「A元丁欄」（Ch.A）と「B元丁欄」（Ch.B）に区分される。「A元丁欄」には，Aの標識を付される元帳から締切残高勘定に振替えられる相手勘定の丁数，「元丁」が記録される。「B元丁欄」には，開始残高勘定から振替えられて，翌期に繰越される，Bの標識を付される元帳の丁数，「元丁」が記録される。

しかも，Goessens自身，例示するように，翌期に繰越される場合には，仕訳帳に記録される。仕訳帳から元帳に転記されて，開始残高勘定から新しい元帳に振替えられて，翌期に繰越される。

もちろん，翌期に繰越されると，開始残高勘定では，借方の面と貸方の面に「合計」を記録して，これまた，借方の面と貸方の面を均衡して締切られることによって，「帳簿繰越」に過誤のないことが検証されるわけである。締切残高勘定が締切られて，借方の面と貸方の面が均等になることによって，更新される帳簿が間違いなく締切られたことは検証されるはずである。これに対して，開始残高勘定が締切られて，借方の面と貸方の面が均等になることによって，新しい帳簿に間違いなく繰越されたことは検証されるはずである。したがって，企業の決算時に開設される「残高勘定」は「検証機能」を果たすのに対して，翌期に開設される，これと「１対になる残高勘定」は，まさに完全に「繰越機能」を果たすにちがいない。図15。


現金勘定　丁数32
収　入
支　出
残　高
資本金勘定　丁数 2
残　高
資本金
損　益
債務勘定　丁数 8
残　高
債　務
債権勘定　丁数 9
債　権
残　高
損益勘定　丁数14
資本金
商　品
商品勘定　丁数31
仕　入
売　上
損　益
残　高
残高勘定(締切残高勘定)　丁数36
現　金
債　権
商　品
資本金
債　務
簿記の検証
(帳簿締切の検証)

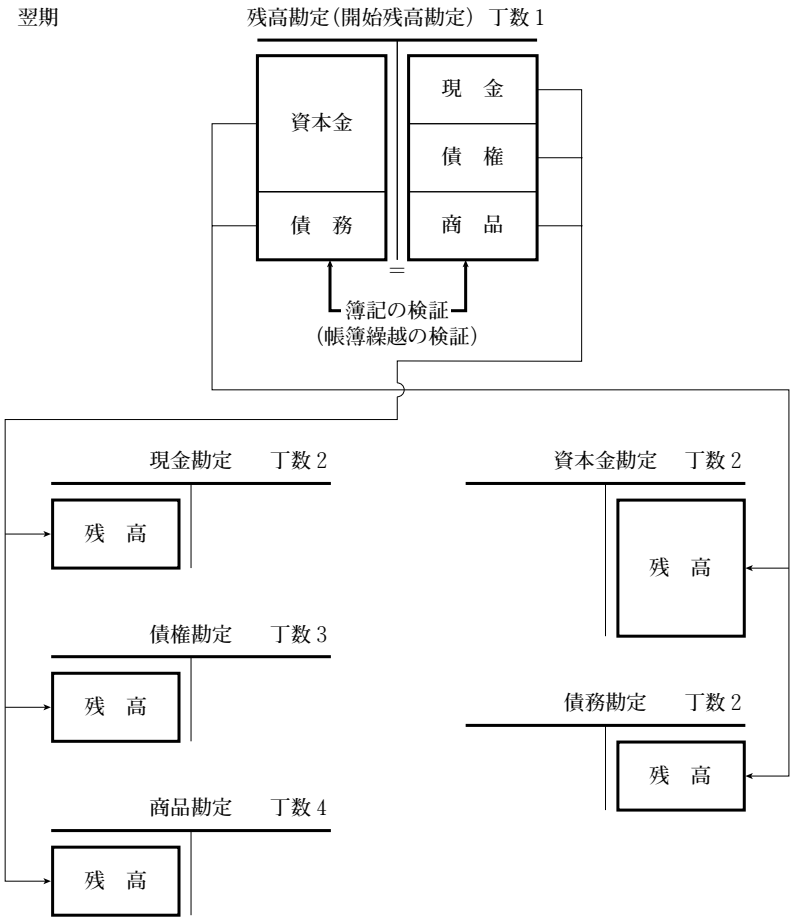


図15

そこで，Goessensは表現する。たとえば，「資本金残高」が翌期に繰越されると，取引番号１として，仕訳帳（頁数１）に「Aの標識を付される帳簿の残高は借方。金額。相手 資本金」[61] と記録する。元帳に転記されると，残高勘定（丁数１）の借方の面に記録するのは，

冒頭の欄に「古くなったAの標識を付される帳簿の残高は借方（Bilantzo der

61）Goessens, Passchier; *a. a. O.*, S. 1 （Jornal）. 括弧内は筆者。
なお，Bの標識を付される帳簿，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，1 Seiteと表現する。

Alten Bücher A. Soll)」,
この欄の下に「１月１日。相手 資本金（Adi Pr. Ianuary. Per Capital)」[62],
資本金勘定（丁数２）の貸方の面に記録するのは,
冒頭の欄に「資本金は貸方」,
この欄の下に「１月１日。相手 Ａの標識を付される帳簿の残高（Adi Pr. Ianuary. Per der Bücher A.)」[63] と。

さらに，Goessensは表現する。たとえば，ハンガリー産の銅の「商品残高」が翌期に繰越されると，取引番号20として，仕訳帳（頁数２）に「ハンガリー産の銅は借方。金額。相手 Ａの標識を付される帳簿の残高」[64] と記録する。元帳に転記されると，残高勘定（丁数１）の貸方の面に記録するのは，冒頭の欄に「古くなったＡの標識を付される帳簿の残高は貸方（Bilantz der Alten Bücher A. Sol haben)」と記録されるので,
この欄の下に「１月１日。相手 ハンガリー産の銅（Adi Pr. Ianuary. Per Ungerisch Kupffer)」[65],
ハンガリー産の銅勘定（丁数４）の借方の面に記録するのは,
冒頭の欄に「ハンガリー産の銅は借方（Ungerisch Kupffer Sol)」,
この欄の下に「１月１日。相手 Ａの標識を付される帳簿の残高」[66] と。

たとえば,「現金残高」が翌期に繰越されても同様。Goessensは表現する。取引番号21として，仕訳帳（頁数２）に「現金は借方。金額。相手 Ａの標識を

62）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* Bl. 1L（Haubtbuch).
なお，Ｂの標識を付される帳簿,「元帳」に打たれた丁数を使用して，1Blattの左側の面Linkeと表現する。

63）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* Bl. 2R（Haubtbuch).
なお，Ｂの標識を付される帳簿,「元帳」に打たれた丁数を使用して，2Blattの右側の面Rechteと表現する。

64）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* S. 2（Jornal). 括弧内は筆者。
なお，Ｂの標識を付される帳簿,「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，2Seiteと表現する。

65）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* Bl. 1R（Haubtbuch).
なお，Ｂの標識を付される帳簿,「元帳」に打たれた丁数を使用して，1Blattの右側の面Rechteと表現する。

66）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* Bl. 2L（Haubtbuch).
なお，Ｂの標識を付される帳簿,「元帳」に打たれた丁数を使用して，2Blattの左側の面Linkeと表現する。

付される帳簿の残高」[64] と記録する。元帳に転記されると，残高勘定（丁数１）の貸方の面に記録するのは，
冒頭の欄に「古くなったAの標識を付される帳簿の残高は貸方」，
この欄の下に「１月１日。相手 現金（Adi Pr. Ianuary. Per Cassa)」[65]，
現金勘定（丁数２）の借方の面に記録するのは，
冒頭の欄に「現金は借方)」，
この欄の下に「１月１日。相手 Aの標識を付される帳簿の残高」[66] と。

そこで，Goessensの例示する企業の決算時に開設される「残高勘定（締切残高勘定)」(丁数36）と翌期の開始時に開設される「残高勘定（開始残高勘定)」(丁数１）を簡略化して表示することにする。図16を参照。

残高勘定（締切残高勘定）　丁数36

残高は借方				残高は貸方			
取引番号	日付	相手	元丁	取引番号	日付	相手	元丁
317	12/31	装身具		316	12/31	資本金	
		M1438. ß2.	3			M32597. ß10. d4 $\frac{1}{5}$.	2
		地代証券				債権者	
		M3750.	4			M2250.	8
		都市				債権者	
		M180.	4			M467. ß4.	18
		毛織物				債権者	
		M1502. ß3. d2 $\frac{2}{5}$.	7			M11109.	19
		債務者				債権者	
		M780.	9			M2250.	26
		債務者				債権者	
		M1698. ß11. d7 $\frac{1}{2}$.	13			M90.	30
		債務者					
		M1919. ß5. d9.	16				
		債務者					
		M776. ß4.	20				
		果実					
		M3375.	20				
		債務者					
		M4701. ß9.	24				

債務者			
M1546. ß14.	24		
旅商			
M3750.	27		
天鵞絨			
M1310. ß10.	28		
銅			
M9125.	31		
現金			
M3852. ß8. d9 $\frac{3}{10}$.	32		
債務者			
M3248. ß7.	31		
船			
M3500.	32		
亜麻布			
M1858. ß1.	34		
衣類			
M451. ß2.	35		
M48763. ß14. d4 $\frac{1}{5}$.		M48763. ß14. d4 $\frac{1}{5}$.	

残高勘定（開始残高勘定）　　丁数 1

残高は借方				残高は貸方			
取引番号	日付	相手	A元丁/B元丁	取引番号	日付	相手	A元丁/B元丁
1	1/1	資本金		21	1/1	現金	
		M32597. ß10. d4 $\frac{1}{5}$.	2/2			M3852. ß8. d9 $\frac{3}{10}$.	32/2
2		債権者		7		装身具	
		M2250.	8/2			M1438. ß2.	3/2
3		債権者		8		地代証券	
		M467. ß4.	18/2			M3750.	4/3
4		債権者		9		都市	
		M11109.	19/2			M180.	4/3
5		債権者		10		毛織物	
		M2250.	26/2			M1502. ß3. d2 $\frac{2}{5}$.	7/3
6		債権者		11		債務者	
		M90.	30/2			M780.	9/3

12	債務者	
	M1698. ß11. d7 $\frac{1}{2}$.	13/3
13	債務者	
	M1919. ß5. d9.	16/3
14	債務者	
	M776. ß4.	20/3
15	果実	
	M3375.	20/3
16	債務者	
	M4701. ß9.	24/4
17	債務者	
	M1546. ß14.	24/4
18	旅商	
	M3750.	27/4
19	天鵞絨	
	M1310. ß10.	28/4
20	銅	
	M9125.	31/4
22	債務者	
	M3248. ß7.	31/4
23	船	
	M3500.	32/4
24	亜麻布	
	M1858. ß1.	34/4
25	衣類	
	M451. ß2.	35/4
	M48763. ß14. d4 $\frac{1}{5}$.	
	M48763. ß14. d4 $\frac{1}{5}$.	

図16

最後に，帳簿締切については，あえて憶測するとして，簡単に例示するなら，「元帳」は，むしろ，以下のように振替，締切られるのではなかろうか。図17および図18を参照。

事例：１期
(1)現金200を元入れて，企業を開始。
(2)Ｘ商品を仕入れて，現金200を支払う。
(3)Ｙ商品を仕入れて，支払い80は掛けとする。
(4)Ｘ商品（原価200）を売上げて，現金230を受取る。
(5)Ｙ商品（原価30）を売上げて，受取り40は掛けとする。
(6)本日，企業を決算（期間損益を計算）。

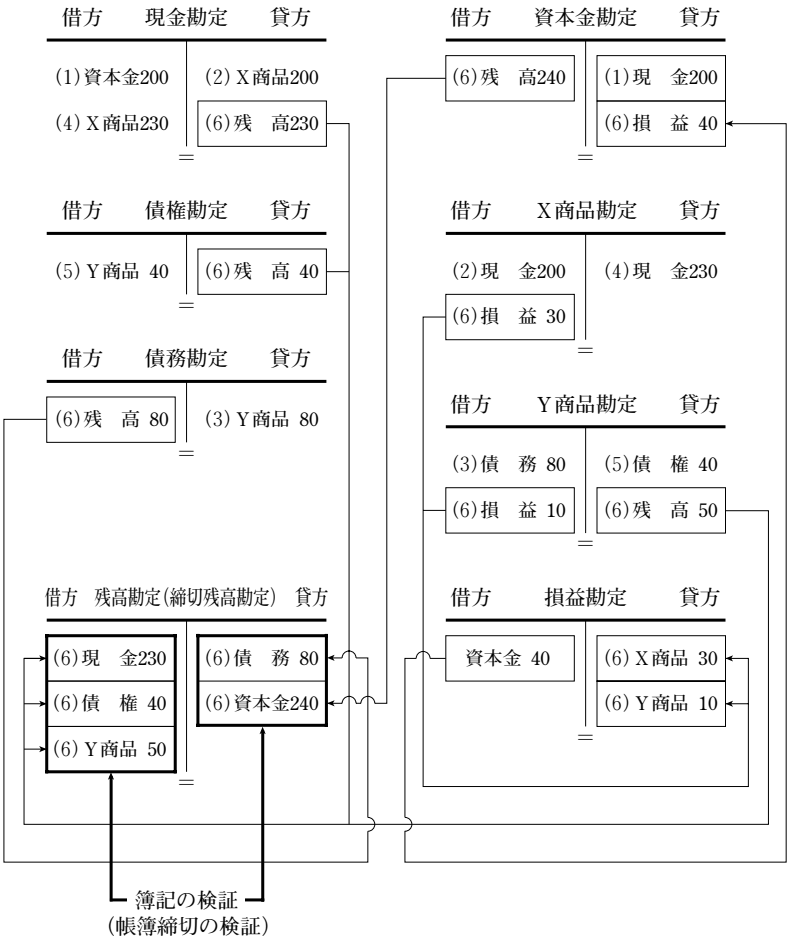


図17

事例：２期
(7)現金230，債権40と債務80，Ｙ商品50を繰越して，企業を継続。
(8)Ｙ商品（原価50）を売上げて，受取り30は掛けとする。
(9)債権の返済として，現金70を受取る。
(10)債務の返済として，現金80を受払う。
(11)本日，企業を解散（期間損益を計算）。

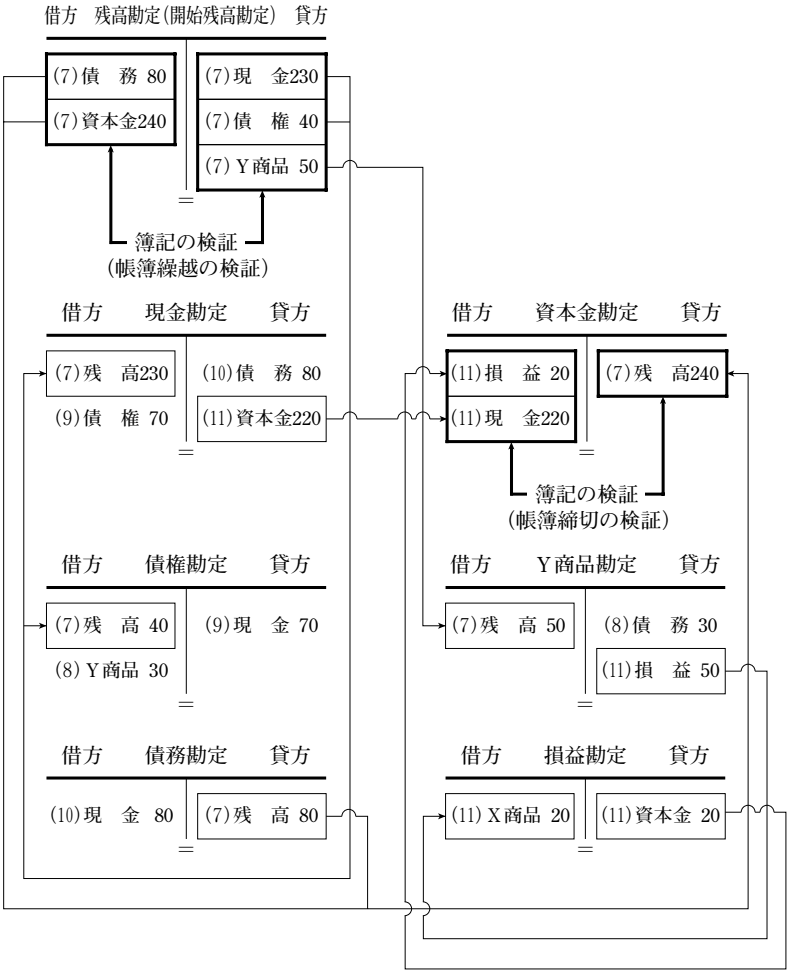


図18

なお，Goessensの例示する「企業の決算時の仕訳帳」(頁数44および頁数46)[67]，元帳の丁数36の「残高勘定（締切残高勘定)」[68]，「企業の開始時の仕訳帳」(頁数１)[67]，元帳の丁数１の「残高勘定（開始残高勘定)」[68] および丁数２の「更新される，新しい帳簿」[68] を原文と共に表示することにする。図19，図20，図21，図22および図23を参照。

67）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* S.44/46 (45)/１（Jornal).
なお，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，44/46Seiteと表現するが，46Seiteは45Seiteの誤植。さらに，Bの標識を付される帳簿，「仕訳帳」に打たれた頁数を使用して，１Seiteと表現する。
原文では，「金額欄」の左側に「リューベック貨幣」，右側には「フランドル貨幣」が併記されるが，紙幅の都合上，フランドル貨幣を金額欄に記録することは省略する。

68）Goessens, Passchier; *a. a. O.,* Bl. 36/１/２（Haubtbuch).
なお，「元帳」に打たれた丁数を使用して，36Blattの両側の面と表現する。さらに，Bの標識を付される帳簿，「元帳」に打たれた丁数を使用して，１Blattの両側の面，２Blattの両側の面と表現する。
原文では，「金額欄」の左側に「リューベック貨幣」，右側には「フランドル貨幣」が併記されるが，紙幅の都合上，フランドル貨幣を金額欄に記録することは省略する。

企業の決算時の仕訳帳

元丁	頁数44	リューベック貨幣 M	ß	d
	帳簿締切ないしこの簿記の残高 取引番号316. 以下の6項目は借方。M48763. ß14. d 4 $\frac{1}{5}$. 相手 残高。 12月31日，A帳簿の締切時に，私が支払いを負うもの。それぞれの勘定の残高を計算して，借方に記録。新しいB帳簿の勘定には，項目ごとに貸方に振替。以下のとおり。			
2/36	資本金は借方。	32597	10	4 $\frac{1}{5}$
8/36	Francisco Mangelmanは借方。支払期日は1594年4月8日。	2250	—	—
18/36	家長のPeterは借方。債務の残高。	467	4	—
19/36	Romein von Castelは借方。支払期日は1594年5月1日。	11109	—	—
26/36	NicolausとHans Bunneは借方。リスボンへの旅商に，私と共同で，$\frac{1}{2}$づつを出資。	2250	—	—
30/36	利息の債務は借方。1年間の利息。	90	—	—
	合計 M48763. ß14. d 4 $\frac{1}{5}$.			

Der Beschluß oder Saldo dieses Buchhaltens.

316. Nachfolgende 6. Creditores Sollen / ℔ 48763. ß 14. ₰ $4\frac{1}{5}$. L. 6501. ß 17. ₰ $0\frac{7}{10}$. *Per Bilancio* / Denen ich *Dato vltimo Decembris* bey Beschluß der Bücher No. *A.* schüldig blieben / Die werden hiemit zu Saldierung ihrer Rechnung zu *Debitores*. Vnd auff der newen Rechnung *No. B.* widerumb zu *Creditoren* gemacht / von Post zu Post / Wie hernach folgt.

.2. .36.	*Capital* Soll	32597	10	$4\frac{1}{5}$	4364	7	$0\frac{7}{10}$
.8.	Francisco Mangelman Soll / Verfahlt den 8. Aprilis Anno 94.	2250	—	—	300	—	—
.13.	Peter mit dem Schlüssel *Conto di tempo* Soll / *Per Resto* dieselbige Rechnung	467	4	—	62	6	—
.19.	Romein von Castel Soll / Zahlen *Primo Maij* Anno 94.	11109	—	—	1481	4	—
.26.	Nicolaus vnd Hans Bunne Sollen / *Per* jhr *Capital* A. $\frac{1}{2}$. In der Lyssebonischen Handlung	2250	—	—	300	—	—
.30.	Renten Sollen / *Per* ein Jahr verlauff	90	—	—	12	—	—

Summa wie oben —— ℔ 48763. ß 14. ₰ $4\frac{1}{5}$. L. 6501 ß 17. ₰ $0\frac{7}{10}$.

317. Bilan

元丁	神に感謝　1593年12月31日　ハンブルク　頁数46	リューベック貨幣 M	ß	d
	取引番号317. A帳簿の残高は貸方。M48763.ß14.d 4 $\frac{1}{5}$. 相手 以下の19項目。12月31日，A帳簿の締切時に，私に支払いを負うもの。それぞれの残高を計算して，貸方に記録。新しいB帳簿の勘定には，項目ごとに借方に振替。以下のとおり。			
36/3	相手 多種の装身具。	1438	2	—
36/4	相手 地代証券。	3750	—	—
36/4	相手 都市のアントワープ。利息の債権。	180	—	—
36/7	相手 イギリス産の毛織物。14梱。	1502	3	2 $\frac{2}{5}$
36/9	相手 Johan von Lartren。支払期日は1594年4月4日。	780	—	—
36/19	相手 Frantz Poep。支払地はフランクフルト，支払期日は1594年の復活祭。	1968	11	7 $\frac{1}{2}$
36/16	相手 Sebastian Lanß。支払地は同上,支払期日は1594年の復活祭。	1919	5	9
36/20	相手 Gerhardt von Epercum。支払期日は1594年1月20日。	776	4	—
36/20	相手 果実。180梱。	3375	—	—
36/24	相手 Ulrich von Passaw。支払地はフランクフルト。支払期日は1594年の復活祭。	4701	9	—
36/24	相手 Arnoldt von Graß。支払地は同上。支払期日は1594年の復活祭。	1546	14	—
36/27	相手 リスボンへの旅商。NicolausとHans Bunneと共同で，$\frac{1}{2}$づつを出資。小麦を積送中。35ラスト。	3750	—	—
36/28	相手 ジェノヴァ産の天鵞絨。6梱。169エレ。	1310	10	—

$\frac{36}{31}$	相手 ハンガリー産の銅。715梱。35000ポンド。	9125	—	—
$\frac{36}{32}$	相手 現金。	3852	8	$9\frac{3}{10}$
$\frac{36}{31}$	相手 Franß von Achen。支払地はフランクフルト。支払期日は1594年の復活祭。	3248	7	—
$\frac{36}{32}$	相手 船のWildeman号。私が所有するのは船荷の$\frac{1}{5}$。	3500	—	—
$\frac{36}{34}$	相手 白色の亜麻布。100梱。6260エレ。	1858	1	—
$\frac{36}{35}$	相手 船員の衣類。リィボルノへの旅商。	451	2	—
	合計 M48763.£14.d 4 $\frac{1}{5}$.			
	A帳簿は終了			

＊仕訳帳の頁数46は，頁数45の誤植。

Laus Deo Adi Ultimo Decembris Anno 1593. 46

		Lübisch ℔	ß	₰	Flamisch L	ß	
	317. Bilantz **dieser Bücher** *No. A.* **Soll** ℔ 48763. ß 14. ₰ $4\frac{1}{5}$. L. 6501. ß 17. ₰ $0\frac{7}{16}$. / *Per* nachfolgende 19. *Debitores* / Welche mir *Dato vltimo Decembris* bey Beschluß der Bücher *No. A.* schüldig blieben / Die werden hiemit zu Saldierung jhrer Rechnung zu *Creditorn* / Vnd auff newe Rechnung *No. B.* widerumb zu *Debitoren* gemacht / Von Post zu Post / Wie hernach folgt.						
.36. / .3.	Per **Klenöther mehrerley** /	1438	2	—	191	15	—
.4.	Per **Rentbrieff** /	3750	—	—	500	—	—
	Per **Stadt Anthorff** / Verfallen Zinß	180	—	—	24	—	—
.7.	Per **Weisse Englische Tucher** / Stück 14.	1502	3	$2\frac{2}{5}$	200	5	$10\frac{2}{5}$
.9.	Per **Johan von Lartren** / Zahlen den 4. Apprilis Anno 1594.	780	—	—	104	—	—
.19.	Per **Frans Poep** / Zahlen in Franckfurter Ostermeß Anno 1594.	1698	11	$7\frac{1}{2}$	226	9	$11\frac{3}{4}$
.16.	Per **Sebastian Lantz** / Zahlen in *Ditto* Ostermeß	1919	5	9	255	18	$3\frac{1}{2}$
.20.	Per **Gerhardt von Epercum** / Zahlen den 20. Januarij Anno 94.	776	4	—	103	10	—
	Per Carise á Monte / Stück 180.	3375	—	—	450	—	—
.24.	Per **Vlrich von Passaw** / Zahlen in Franckfurter Ostermeß Anno 1594.	4703	9	—	626	17	6
	Per **Arnoldt von Gratz** / Zahlen in *Ditto* Ostermeß	1546	14	—	206	5	—
.27.	Per Viagio de Lisbona A. $\frac{1}{2}$. **mit Niclaus vnd Hans Bunne** / Weizen der 35. Last Weitzen so dahin verschickt.	3750	—	—	500	—	—
.28	Per **Sammat von Genua** / Stück 6. Ellen 369.	3310	10	—	174	15	—
.31.	Per **Vngerisch Kupffer** / Stück 715. ℔ 35000.	9125	—	—	1216	13	4
.32.	Per Cassa / an Barschaffe	3852	8	$9\frac{3}{10}$	513	13	$5\frac{1}{5}\frac{1}{20}$
.31.	Per **Frans von Achen** / Zahlen in Franckfurter Ostermeß Anno 94.	3248	7	—	433	2	6
.32.	Per **Schiff der Wildeman** / $\frac{1}{5}$. Schiffspart so ich darin hab	3500	—	—	466	13	4
.34.	Per **Weiß Jsegemmer Leinwandt** / Stück 100. Elln 6260.	1858	1	—	247	14	10
.35.	Per **Schiffs Reidung** / Wegen der Reiß nach Liuorno	451	2	—	60	3	—
	Summa wie oben ℔ 48763. ß 14. ₰ $4\frac{1}{5}$. L. 6501. ß 17. ₰ $0\frac{7}{16}$.						

Ende der Bücher No. A.

Vnter-

図19

元帳　残高勘定（締切残高勘定）

取引番号	1593年	リューベック貨幣		
	残高は借方。	M	ß	d
	以下，借方の19項目は，12月31日，私に支払いを負うもの。相手 A帳簿の残高，すべては貸方に記録。新しいB帳簿の勘定の借方に振替。以下のとおり。			
	12月31日。			
317	相手 装身具。 元丁3	1438	2	—
317	相手 地代証券。 元丁4	3750	—	—
317	相手 都市のアントワープ。 元丁4	180	—	—
317	相手 イギリス産の白色の毛織物。 元丁7	1502	3	$2\frac{2}{5}$
317	相手 Johan von Lartren。 元丁9	780	—	—
317	相手 Frantz Poep。 元丁13	1698	11	$7\frac{1}{2}$
317	相手 Sebastian Lanß。 元丁16	1919	5	9
317	相手 Gerhardt von Epercum。 元丁20	776	4	—
317	相手 果実。 元丁20	3375	—	—
317	相手 Ulrich von Passow。 元丁24	4701	9	—
317	相手 Arnoldt von Graß。 元丁24	1546	14	—
317	相手 リスボンへの旅商。Nicolausと Hans Bunneと共同で，$\frac{1}{2}$づつ出資。 元丁27	3750	—	—

取引番号	丁数36	リューベック貨幣		
	残高は貸方。	M	ß	d
	以下，貸方の６項目は，12月31日，私が支払いを負うもの。相手 A帳簿の残高，すべては借方に記録。新しいB帳簿の勘定の貸方に振替。以下のとおり。			
	12月31日。			
316	相手 資本金。 元丁2	32597	10	$4\frac{1}{5}$
316	相手 Francisco Mangelman。 元丁8	2250	—	—
316	相手 家長のPeter。 元丁18	467	4	—
316	相手 Romein von Castel。 元丁19	11109	—	—
316	相手 NicolausとHans Bunne。 元丁26	2250	—	—
316	相手 利息の債務。 元丁30	90	—	—
		48763	14	$4\frac{1}{5}$
	合計 M48763. ß14. d$4\frac{1}{5}$.			

317	相手 ジェノヴァ産の天鵞絨。元丁28	1310	10	—				
317	相手 ハンガリー産の銅。元丁31	9125	—	—				
317	相手 現金。元丁32	3852	8	$9\frac{3}{10}$				
317	相手 Franß von Achen。元丁31	3248	7	—				
317	相手 船のWildeman号。元丁32	3500	—	—				
317	相手 白色の亜麻布。元丁34	1858	1	—				
317	相手 船員の衣類。元丁35	451	2	—				
		48763	14	$4\frac{1}{5}$				
	合計 M48763. ß14.d4$\frac{1}{5}$.							

36　*Anno* 1593.

Bilantzo Sol/

Nachfolgende 19. Debitores denen mir Dato Vltimo Decembris Per Saldo der Bücher N°. A. schuldig bleiben/werden alhie zu Creditores/ Vnd auff der Newen Rechnung N°. B. Wiederumb zu Debitores gemacht/ Wie folgt.

Adi				Ch	Lübisch ℔	ß	₰	Flamisch L	ß	₰
317	*Vl. Decēbr.*	*Per* Kleinnöter		3	1438	2	—	191	15	—
—	—	*Per* Rentbrieff		4	3750	—	—	500	—	—
—	—	*Per* Stadt Anthorff		—	180	—	—	24	—	—
—	—	*Per* Weisse Englische Tücher		7	1502	3	$2\frac{2}{5}$	200	5	$10\frac{2}{5}$
—	—	*Per* Johan von Lartren		9	780	—	—	104	—	—
—	—	*Per* Franß Poep		13	1698	11	$7\frac{1}{2}$	226	9	$11\frac{1}{2}$
—	—	*Per* Sebastian Lanß		16	1919	5	9	255	18	$3\frac{1}{2}$
—	—	*Per* Gerhardt von Epercum		20	776	4	—	103	10	—
—	—	*Per* Carise *Amonte*		—	3375	—	—	450	—	—
—	—	*Per* Vlrich von Passaw		24	4701	9	—	626	17	6
—	—	*Per* Arnoldt von Graß		—	1546	14	—	206	5	—
—	—	*Per Viagio de* Lissebona A $\frac{1}{2}$ mit Nicolaus vnd Hans Bunne		27	3750	—	—	500	—	—
—	—	*Per* Sammat von Genua		28	1310	10	—	174	15	—
—	—	*Per* Vngerisch Kupffer		31	9125	—	—	1216	13	4
—	—	*Per Cassa*		32	3852	8	$9\frac{3}{10}$	513	13	$5\frac{11}{20}$
—	—	*Per* Franß von Achen		31	3248	7	—	433	2	6
—	—	*Per* Schiff der Wildeman		32	3500	—	—	466	13	4
—	—	*Per* Weiß Isegemmer Lynnewandt		34	1858	1	—	247	14	10
—	—	*Per* Schiffs Reidung		35	451	2	—	60	3	—
				℔	48763	14	$4\frac{1}{5}$	6501	17	$0\frac{7}{10}$

Summa ℔ 48763. ß 14. ₰ $4\frac{1}{5}$. L. 6501. ß 17. ₰ $0\frac{7}{10}$.

Bilantzo

Anno 1593. 36

Bilantzo **Soll haben/**

Nachfolgende 6. Creditores **Denen ich** Dato Vltimo Decembris **Anno** 93. Per Saldo **der alten Bücher** *No.* A. **schüldig blieben / Die werden alhie zu** Debitores/**vnd auff der newen Rechnung** *No.* B. **Widerumb zu** Creditores **gemacht/ Wie folgt.**

	Adi			Ch.	Lübisch. ℔	ß	₰	Flamisch L	ß	₰
					℔	ß	₰	L	ß	₰
316	*Vt.*	*Decēb.*	*Per Capital*	2	32597	10	$4\frac{1}{3}$	4346	7	$0\frac{7}{18}$
			Per Francisco Mangelman	8	2250	—	—	300	—	—
			Per Peter mit dem Schlüssel *Conto di tempo*	18	467	4	—	62	6	—
			Per Romein von Castel	19	11109	—	—	1481	4	—
			Per Nicolaus vnd Hans Bunne	26	2250	—	—	300	—	—
			Per Renten	30	90	—	—	12	—	—
					48763	14	$4\frac{1}{3}$	6503	17	$0\frac{7}{18}$

Summa 48763. ß 14. ₰ $4\frac{1}{3}$. L. 6503. ß 17. ₰ $0\frac{7}{18}$.

M 2 *IORNAL*

図20

翌期の開始時の仕訳帳

元丁	頁数1 神に感謝　1594年1月1日	リューベック貨幣 M	ß	d
	借　方			
1/2	取引番号1. A帳簿の残高は借方。M32597.ß10.d4$\frac{1}{5}$. 相手 資本金。A帳簿の残高を振替。	32597	10	4$\frac{1}{5}$
1/2	取引番号2. A帳簿の残高は借方。M2250. 相手 Francisco Mangelman。支払期日は1594年4月8日。A帳簿の残高を振替。	2250	—	—
1/2	取引番号3. A帳簿の残高は借方。M467.ß4. 相手 家長のPeter。残高を振替。	467	4	—
1/2	取引番号4. A帳簿の残高は借方。M11109. 相手 Romein von Castell。支払期日は1594年5月1日。残高を振替。	11109	—	—
1/2	取引番号5. A帳簿の残高は借方。M2250. 相手 Nicolaus とHans Brunne。リスボンへの旅商に1年間，出資される債務。A帳簿の残高を振替。	2250	—	—
1/2	取引番号6. A帳簿の残高は借方。M.90. 相手 利息の債務。支払期限は1593年の聖ヨハネ祭。都市のアントワープの1年間の債務。	90	—	—
	貸　方			
2/1	取引番号7. 多種の装身具は借方。M1438.ß2. 相手 A帳簿の残高。A帳簿の残高を振替。内訳と見積価額は以下のとおり。 ダイヤモンドの指輪，1個。　M150. 金地にちりばめたルビー，1個。　M45. 金地にちりばめたルビー，1個。　M18.ß12. トルコ産の指輪，1個。　M30. ハンガリー産の金で細工される二重の記念指輪，1個。　M22.ß8. 金製の腕輪，1対。　M94.ß2. 金製の鎖，1本。187クローネ，単価ß42.。　M490.ß14.			

	金製の鎖，１本。80クローネ，単価ℒ42.。 M210. 金製の指輪，１個。　M９.ℒ６. 金張りの杯。３個。150ロート，リューベック貨幣の単価24ℒ.。　M232.ℒ８. 銀製のⅢ，２枚。60ロート，単価20ℒ. M75. 銀製のビール杯，２個。48ロート，単価ℒ24.。 M60. 計	1438	2	—
3/1	取引番号８. 地代証券は借方。M3750. 相手 A帳簿の残高。残高を振替。都市のアントワープの地代証券に，利息は６パーセント。 都市のアントワープの地代証券。　M1550. Buggenholdtに貸与するブラバントにある農地。 M2250. 計	3750	—	—
3/1	取引番号９. 都市のアントワープは借方。M180. 相手 A帳簿の残高。A帳簿の残高を振替。支払期日は1592年と1593年の聖ヨハネ祭。１年間の利息の債権。	180	—	—
3/1	取引番号10. イギリス産の白色の毛織物は借方。M1502.ℒ3.d2$\frac{2}{5}$. 相手 A帳簿の残高。残高を振替。14梱。	1502	3	2$\frac{2}{5}$

＊取引番号８，都市のアントワープの地代証券は，1500M.の誤植。

Laus Deo Adi primo Januarij Anno 1594. 1

		Lübisch. ℔	ß	₰	Flamisch L	ß	₰
	Debitores.						
.1. .2.	1. Bilantzo A. **Soll**/ ℔ 32597. ß 10. ₰ $4\frac{7}{8}$. L. 4346. ß 7. ₰ $0\frac{7}{10}$. *Per Capitall*, vmb so viel bleib ich *Ditto Conto per Rest* vnd *Saldo* der Bücher *A.* zuthuende —	32597	10	$4\frac{7}{8}$	4346	7	$0\frac{7}{10}$
.1. .2.	2. Bilantzo A. **Soll**/ ℔ 2250. — — L. 300 — — *Per* Francisco Mangelman/ Ist *per Rest* der Bücher *A.*/ vertaget 8. Aprilis negst künfftig/ —	2250	—	—	300	—	—
.1. .2.	3. Bilantzo A. **Sol**/ ℔ 467. ß 4. — L. 62. ß 6. — *Per* Peter mit dem Schlüssel *Conto di tempo*, *Restieret* jhm an seinem *Conto* —	467	4	—	62	6	—
.1. .2.	4. Bilantzo A. **Sol**/ ℔ 1109. — — L. 1481. ß 4. — *Per* Romein von Castell/ vertagen *Adi Primo Maio proximo.* —	1109	—	—	1481	4	—
.1. .2.	5. Bilantzo A. **Sol**/ ℔ 2250. — — L. 300. — — *Per* Nicolaus vnd Hans Bunne/ *Ditto* Summa für ein Jahr lang mit Jhnen *Prolongiret* In der Lissboner Handlung —	2250	—	—	300	—	—
.4. .1.	6. Bilantzo A. **Sol**/ ℔ 90. — L. 12. — *Per* Renten Ist für ein Jahr Rente/ So die Stadt Anthorff auff Johanni Año 1593. zubezahlen verfallen —	90	—	—	12	—	—
	Creditores.						
	7. **Kleinöther** Conto **Mehrerley Sorten Sol**/ *Adi* — *Ditto* ℔ 1438. ß 2. — L. 191. ß 15. —. *Per Bilantzo* der Alten Bücher A. Befinde vnder scheidtlichen *Restieren* Lauth desselben/ vnd seindt *Estimieret* werth sein als folgt.						
	Ein Spitziger Diamenten Ring — ℔ 150. — — L. 20. — —						
	Ein Robyn Taffel in Gold versetzt — ℔ 45. — — L. 6. — —						
	Ein Robin auch in Goldt versetzt — — ℔ 18. ß 12 — L. 2. ß 10. —						
.2. .1.	Ein Turkoß Ringk — — — ℔ 30. — — L. 4. — —						
	Ein zwifachet Denckringk von Vngrischem Goldt — — — ℔ 22. ß 8 — L. $1\frac{3}{4}$ — —						
	Ein par Güldene Armbande — — ℔ 94. ß 2. — L. 12. ß 11. —						
	Ein Güldene Ketten wicht Kro. 187. A 42. ß ℔ 490. ß 14. — L. 65. ß 9. —						
	Ein güldene Ketten 80. Kronen schwer, A 42. ß ℔ 210. — — L. 28. — —						
	Ein Güldener Ringk wicht an Goldt — — ℔ 9. ß 6. — L. 1. ß 5 —						
	Drey vergülte Becher wegen zusammen Loth 150. A 24. ß Lübisch Jedes — — ℔ 232. ß 8. — L. 31. — —						
	Zwo Silberne Schalen wegen 60. Loth A 20. ß ℔ 75. — — L. 10. — —						
	Zwen Silberen Becher wegen 48. Loth A 24. ß ℔ 60. — — L. 8. — —						
	℔ 1438. ß 2. — L. 191. ß 15. —						
	Belauffen in Summa zusammen — — —	1438	2	—	191	15	—
	8. **Rembrieff Sollen**/ ℔ 3750. — — L. 500. — — *Per Bilantzo A.* Ist wegen der Haubtpfenning mehrerley Renten/ Als ℔ 90. — — — L. 12. — — auff die Stadt Antorff/ gegen 6. *Per* & *Lanno*/ Thut das *Capitall* — — — — ℔ 1550. — — L. 200. — —						
.3. .1.	℔ 135 — — L. 18. — — Hat mir Gleuier de Schmidt auff dem Pachthoff zu Buggenholdt in Brabande vberwiesen. gegen 6. *Per* & *Lanno* — 2250. — — 300. — —						
	Zusammen wie oben — — — — —	3750	—	—	500	—	—
.3. .1.	9. **Stadt Anthorff Sol**/ ℔ 180. — — L. 24. — — *Per Bilantzo A.* Ist vor 2. Jar Rente so auff Johanni Anno 92. vnd 93. verfallen — —	180	—	—	24	—	—
.3. .1.	10. **Weisse Englische Tücher Sollen**/ ℔ 1502. ß 3. ₰ $2\frac{2}{3}$. L. 200. ß 5. ₰ $10\frac{2}{3}$. *Per Bilantzo A.* Ist *Per* 14. Stück Langosesters/ Haben kost wie oben —	1502	3	$2\frac{2}{3}$	200	5	$10\frac{2}{3}$

11. Johan

図21

元帳　残高勘定（開始残高勘定）

取引番号	神に感謝 1594年1月1日	リューベック貨幣		
	残高は借方。	M	ß	d
	以下，借方の６項目は，1953年12月31日，私が支払いを負うもの。相手旧帳簿Ａの残高，すべては借方に記録。Ｂ帳簿，それぞれの勘定の貸方に振替。以下のとおり。			
	１月１日。			
1	相手 資本金。			
	A元丁２，B元丁２	32597	10	4
2	相手 Francisco Mangelman。			
	A元丁８，B元丁２	2250	—	—
3	相手 家長のPeter。			
	A元丁18，B元丁２	467	4	—
4	相手 Romein von Castel。			
	A元丁19，B元丁２	11109	—	—
5	相手 Nicolausと Hans Bunne。			
	A元丁26，B元丁２	2250	—	—
6	相手 利息の債務。			
	A元丁30，B元丁２	90	—	—
		48763	14	$4\frac{1}{5}$
	合計 M48763. ß14.d$4\frac{1}{5}$.			

取引番号	丁数１	リューベック貨幣		
	残高は貸方。	M	ß	d
	以下，貸方の19項目は，1953年12月31日，私に支払いを負うもの。相手旧帳簿Ａの残高，すべては貸方に記録。Ｂ帳簿，それぞれの勘定の借方に振替。以下のとおり。			
	１月１日。			
21	相手 現金。			
	A元丁32，B元丁２	3852	8	$9\frac{3}{10}$
7	相手 装身具。			
	A元丁３，B元丁２	1438	2	—
8	相手 地代証券。			
	A元丁４，B元丁３	3750	—	—
9	相手 都市のアントワープ。			
	A元丁４，B元丁３	180	—	—
10	相手 イギリス産の白色の毛織物。			
	A元丁７，B元丁３	1502	3	$2\frac{2}{5}$
11	相手 Johan von Lartren。			
	A元丁９，B元丁３	780	—	—
12	相手 Frantz Poep。			
	A元丁13，B元丁３	1698	11	$7\frac{1}{2}$
13	相手 Sebastean Lanß。			
	A元丁16，B元丁３	1919	5	9
14	相手 Gerhardt von Epercum。			
	A元丁20，B元丁３	776	4	—
15	相手 果実。			
	A元丁20，B元丁３	3375	—	—
16	相手 Ulrich von Passaw。			
	A元丁24，B元丁４	4701	9	—

			17	相手 Arnoldt von Graß。			
				A元丁24，B元丁4	1546	14	—
			18	相手 リスボンへの旅商。Nicolausと Hans Bunneと共同で，$\frac{1}{2}$づつ出資。			
				A元丁27，B元丁4	3750	—	—
			19	相手 ジェノヴァ産の天鵞絨。			
				A元丁28，B元丁4	1310	10	—
			20	相手 ハンガリア産の銅。			
				A元丁31，B元丁4	9125	—	—

(右頁へ続く)

(左頁から続く)

			22	相手 Frantz von Achen。			
				A元丁31, B元丁4	3248	7	—
			23	相手 船のWildeman号。			
				A元丁32, B元丁4	3500	—	—
			24	相手 白色の亜麻布。			
				A元丁34, B元丁4	1858	1	—
			25	相手 船員の衣類。			
				A元丁35, B元丁4	451	2	—
					48763	14	$4\frac{1}{5}$
				合計 M48763.£14.d4$\frac{1}{5}$.			

Laus Deo Anno 1594. Adi 1. Januarij in Hamb.

Bilantzo der Alten Bücher A. Soll/

Nachfolgende 6. Creditores Denen ich gestern vltimo Decembris Anno 1593. Per Saldo der alten Bücher A. schüldig blieben/ Die werden alhie zu Debitores/vñ hernach jder auff ein besonder Conto zu Creditores gemacht/

Adi			Ch. A	Ch. B	Lübisch. ℔	ß	₰	Flamisch. L	ß	₰
					℔	ß	₰	L	ß	₰
1	Pr. Januarij	Per Capital — — — — — —	2	2	32597	10	4½	4346	7	0 7/16
2	—	Per Francisco Mangelman — — — —	8	—	2250	—	—	300	—	—
3	—	Per Peter mit dem Schlüssel *Conto di tempo* — —	18	—	467	4	—	62	6	—
4	—	Per Romein von Castel — — — —	19	—	11109	—	—	1481	4	—
5	—	Per Nicolaus vnd Hans Bunne — — —	26	—	2250	—	—	300	—	—
6	—	Per Renten — — — — —	30	—	90	—	—	12	—	—
				℔	48763	14	4½	6501	17	0 7/16

Summa 48763. ß 14. ₰ 4½. L. 6501. ß 17. ₰ 0 7/16.

Laus Deo Anno 1594. Adi 1. Januarij in Hamb. 1.

Bilantz der Alten Bücher A. Sol haben/

Nachfolgende 19. Debitores denen mir gestern Vltimo Decembris Anno 1593. Per Saldo der Alten Bücher A. schuldig blieben / Die werden alhie zu Creditores / Vnd hernach jeder auff ein besunder Conto zu Debitores gemacht/

				Ch. A.	Ch. B.	Lübisch ℔	ß	₰	Flamisch L	ß	₰
	Adi										
.21	Pr.	Januarij	Per Cassa/	32	2	3852	8	9 7/10	513	13	5 11/20
.7	—		Per Kleinnöter	3	—	1438	2	—	191	15	—
.8	—		Per Rentbrieff	4	3	3750	—	—	500	—	—
.9	—		Per Stadt Anthorff	—	—	180	—	—	24	—	—
.10	—		Per Weisse Englische Tücher	7	—	1502	3	2 2/5	200	5	10 2/5
.11	—		Per Johan von Lartren	9	—	780	—	—	104	—	—
.12	—		Per Franß Poep	13	—	1698	11	7 1/2	226	9	11 1/2
.13	—		Per Sebastean Lanß	16	—	1919	5	9	255	18	3 1/2
.14	—		Per Gerhardt von Epercum	20	—	776	4	—	103	10	—
.15	—		Per Carise *A monte*	—	—	3375	—	—	450	—	—
.16	—		Per Vlrich von Passaw	24	4	4701	9	—	626	17	6
.17	—		Per Arnoldt von Graß	—	—	1546	14	—	206	5	—
.18	—		Per *Viagio de* Lissebona A 1/2 mit Nicolaus vnd Hans Bunne	27	—	3750	—	—	500	—	—
.19	—		Per Sammat von Genua	28	—	1310	10	—	174	15	—
.20	—		Per Vngerisch Kupffer	31	—	9125	—	—	1216	15	4
.22	—		Per Franß von Achen	31	—	3248	7	—	433	2	6
.23	—		Per Schiff der Wildeman	32	—	3500	—	—	466	13	4
.24	—		Per Weiß Isegemmer Lynnewandt	34	—	1858	1	—	247	14	10
.25	—		Per Schiffs Reidung	35	—	451	2	—	60	3	—
					℔	48763	14	4 1/5	6501	17	0 7/10

Summa ℔ 48763. ß 14. ₰ 4 1/5. L. 6501. ß 17. ₰ 0 7/10.

N　　Cassa

図22

元帳　更新される，新しい帳簿

取引番号	1594年	リューベック貨幣 M	ß	d
	現金は借方。			
21	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 元丁1	3852	8	$9\frac{3}{10}$

取引番号	丁数2	リューベック貨幣 M	ß	d
21				
	資本金は貸方。			
1	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 元丁1	32597	10	$4\frac{1}{5}$
	Francisco Mangelmanは貸方。			
2	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 支払期日は1594年の4月8日の債務。 元丁1	2250	—	—
	家長のPeterは貸方。			
3	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 債務。 元丁1	467	4	—
	Romein von Castellは貸方。			

					4	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 支払期日は5月1日の債務。 元丁1	11109	—	—
						NicolausとHans Bunneは貸方。			
					5	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 リスボンへの旅商に共同で，$\frac{1}{2}$づつ出資される債務。 元丁1	2250	—	—
						利息は貸方			
					6	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 1年間の利息の債務。　元丁1	90	—	—
	装身具は借方。								
7	1月1日。 相手　A帳簿の残高。 多種の装身具。 元丁1	1438	2	—					

			2 Anno 1594.		Lübisch.			Flamisch		
			Cassa Sol/		℔	ß	₰	L	ß	₰
Adi 23	Pr.	January	Per Bilantzo der Bücher No. A. An Bahrschafft ——	1	3852	8	9 3/10	513	13	17/20
			Kleinnöther Mehrerley Sollen/		℔	ß	₰	L	ß	₰
Adi 7	Pr.	January	Per Bilantzo der Bücher A. An unterschiedlichen Kleinnötren ——	1	1438	2	—	191	15	—

Capi

Anno 1594. 2

			Ch.	Lübisch ℔	ß	₰	Flamisch L	ß	₰
Adi		Capital Sol haben/		℔	ß	₰	L	ß	₰
1 Pr.	Ianuarij	Per Bilantzo der Bücher A — — — — —	1	32597	10	4/5	4346	7	0 7/8
Adi		Francisco Mangelman Soll haben.		℔	ß	₰	L	ß	₰
2 Pr.	Ianuarij	Per Bilantzo der Bücher A./ Zahlen den 8. April zukünfftig —	1	2250	—	—	300	—	—
Adi		Peter mit dem Schlüssel Conto di tempo Sol haben.		℔	ß	₰	L	ß	₰
3 Pr.	Ianuarij	Per Bilantzo der Bücher A./ So viel bleib ich dieselbige schuldig —	1	467	4	—	62	6	—
Adi		Romein von Castell Sol haben/		℔	ß	₰	L	ß	₰
4 Pr.	Ianuarij	Per Bilantzo der Bücher A./ Verfäldt Primo Maij prossimo —	1	1109	—	—	1481	4	—
Adi		Nicolaus vnd Hans Bunne Sollen haben/		℔	ß	₰	L	ß	₰
5 Pr.	Ianuarij	Per Bilantzo der Bücher A./ Ihr Capitall A 1/2. In der Lissbonischen Handlung — — — — —	1	2250	—	—	300	—	—
Adi		Rente Sollen haben/		℔	ß	₰	L	ß	₰
6 Pr.	Ianuarij	Per Bilantzo der Bücher A./ Ein Jahr verlauff —	1	90	—	—	32	—	—

Nz　Rent.

図23

このように，1594年にGoessensによって出版された印刷本『イタリア人の技法に拠る簡明な簿記』を解明して，筆者なりの卑見を披瀝したところで，複式簿記としては，ドイツに移入されることによって，イタリア簿記は，はたして発展されたか，発展されたのはどこかについても解明される。

まずは，帳簿記録については，「借方」を意味する助動詞と，「貸方」である「相手」を意味する前置詞，この二つの符号を付して，日々の取引事象は，先行して記録される前半と後続して記録される後半に分解して，仕訳帳に移記される。元帳に転記されると，「仕訳帳に先行して記録される項目」は，帳簿の見開きの左側，借方の面に，仕訳帳に記録される「借方」を意味する助動詞と同様に，助動詞を付して，「彼は支払うべし＝私に借りている」，したがって，「借方」と記録される。これに対して，「仕訳帳に後続して記録される項目」は，帳簿の見開きの右側，貸方の面に，仕訳帳に記録される「貸方」である「相手」を意味する前置詞とは相違して，助動詞＋動詞を付して，「彼は持つべし＝私に貸している」，したがって，「貸方」と記録される。仕訳帳に記録されると同様に，「借方」を意味する助動詞を付して記録されることによって，帳簿の見開きの左側，借方の面には，スムースに転記されるかもしれない。これに連動すると，仕訳帳に記録されるのが，むしろ，「相手」である「貸方」を意味する前置詞ということで，帳簿の見開きの右側，貸方の面にも，これまた，スムースに転記されるかもしれない。

しかも，それだけではない。Goessensの例示する「元帳」の様式としては，実は「日付欄」と「元丁欄」という表現だけしか見出されないが，取引番号欄，日付欄，摘要欄，元丁欄，金額欄は罫線を引いて区分されるばかりか，元帳の摘要欄には，帳簿の見開きの左側の面，冒頭の欄に「借方（債務者）の科目」，これに対して，帳簿の見開きの右側の面，冒頭の欄に「貸方（債権者）の科目」が記録される。「元帳の見出し」として記録されるにちがいない。帳簿の見開きの中央に，「勘定科目」が記録される，まさに今日の「元帳」の様式の前段階を彷彿とさせる。しかも，日付欄と摘要欄が罫線を引いて区分されることによって，元帳の摘要欄には，帳簿の見開きの左側の面，冒頭の欄に「借方（債務者）の科目」，が記録されると，この欄の下に，「貸方」である「相手」を意

味する前置詞を冠して，相手勘定だけが整然と記録される。これに対して，帳簿の見開きの右側の面，冒頭の欄に「貸方（債権者）の科目」が記録されても同様。この欄の下に，「借方」である「相手」を意味する前置詞を冠して，これまた，相手勘定だけが整然と記録される。したがって，元帳に転記される取引事象がどのような理由で生起したかが判読され易くなるにちがいない。この貸借残高にどのような理由で到達したかも判読され易くなるにちがいない。

したがって，帳簿記録については，イタリア簿記が，Goessensによって大いに発展されたとするなら，元帳の様式としては，日付欄と摘要欄が罫線を引いて区分されることによって，元帳の摘要欄には，帳簿の見開きの左側の面，冒頭の欄に「借方（債務者）の科目」が記録されると，この欄の下に，「貸方」である「相手」を意味する前置詞を冠して，相手勘定だけが整然と記録されのに対して，帳簿の見開きの右側の面，冒頭の欄に「貸方（債権者）の科目」が記録されると，この欄の下に，「借方」である「相手」を意味する前置詞を冠して，これまた，相手勘定だけが整然と記録されることにあるのではなかろうか。

さらに，帳簿締切については，帳簿全体が更新されて，企業の決算時に，締切残高勘定に振替えられるのに対して，翌期には，開始残高勘定から振替えられて，新しい帳簿に繰越される。まさに残高勘定を経由して，翌期に繰越されるのである。締切残高勘定では，借方の面と貸方の面に「合計」を記録して，借方の面と貸方の面を均衡して締切られることによって，帳簿記録ばかりか，「帳簿締切」に過誤のないことが検証されるわけである。翌期に繰越されると，開始残高勘定では，借方の面と貸方の面に「合計」を記録して，これまた，借方の面と貸方の面を均衡して締切られることによって，「帳簿繰越」に過誤のないことが検証されるわけである。締切残高勘定が締切られて，借方の面と貸方の面が均等になることによって，更新される帳簿が間違いなく締切られたことが検証されるはずである。これに対して，開始残高勘定が締切られて，借方の面と貸方の面が均等になることによって，新しい帳簿に間違いなく繰越されたことが検証されるはずである。したがって，企業の決算時に開設される「残高勘定」は「検証機能」を果たすのに対して，翌期に開設される，これと「1

対になる残高勘定」は，まさに完全に「繰越機能」を果たすにちがいない。

したがって，帳簿締切については，イタリア簿記が，Goessensによって大いに発展されたとするなら，企業の決算時に開設される「残高勘定」，締切残高勘定が開設されて，「検証機能」を果たすだけではなく，翌期には，これと「１対になる残高勘定」，開始残高勘定が開設されて，「繰越機能」を果たすことにあるのではなかろうか。

ところで，「検証機能」については，筆者に疑問が残る。残高勘定によって確認されるのは，「借方合計＝貸方合計」である。そうであるとしたら，貸借平均原理が保証されることによって，企業の開始時，企業の開始後，さらに，企業の決算時に保有する財産が管理されるだけでしかない。しかし，期間損益計算に移行するとなると，財産が管理されるのも，企業の決算時に保有する資本が保全されるためではという疑問が残るのである。想像するに，企業の決算時に，現金勘定，債権勘定，債務勘定，商品勘定から振替えられると，残高勘定には，現金＋債権＋商品－債務，したがって，「実在の正味財産」が計算される。「資本変動の結果」として計算される，企業の決算時の「回収資本」を意味する。これに対して，企業の決算時に，損益勘定から振替えられると，資本金勘定に計算されるのは，投下資本±期間損益，したがって，「期末資本」である。「資本変動の原因」として計算される，企業の決算時の「回収資本」を意味する。しかし，実在の正味財産が計算されるのに併行して，期末資本，資本金残高が計算されるにしても，これでは，「残高勘定」と「資本金勘定」は開放されたままで，締切られることはない[69]。図24を参照。

69）参照，拙稿；「ドイツ簿記とイタリア簿記の交渉（Ⅲ)」，『商学論集』(西南学院大学)，51巻１号，2004年７月，55頁以降。

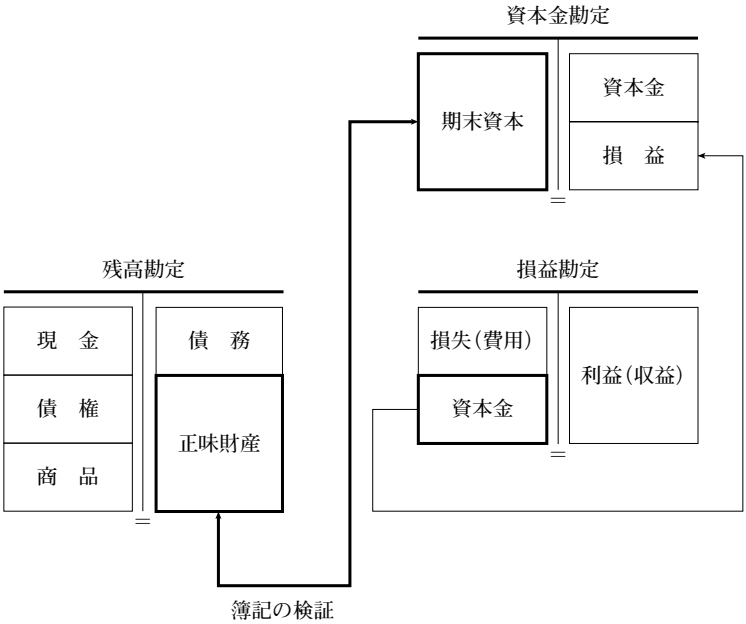


図24

そこで，資本金勘定が締切られるために，期末資本，資本金残高は残高勘定に振替えられねばならない。さらに，「残高勘定」が締切られることによって，帳簿締切は完結するはずである。期間利益が計算される場合に，回収資本＞投下資本，したがって，回収資本（実在の正味財産）＝投下資本＋期間利益（資本余剰），期間損失が計算される場合には，回収資本＜投下資本，したがって，残高勘定に計算されるのは，回収資本（実在の正味財産）＝投下資本－期間損失（資本不足）（債務超過を含む），極端には，期間損失（資本不足）－投下資本＝回収資本（実在のマイナス正味財産）（完全に債務超過）である。借方の面と貸方の面が均等になることによって，残高勘定によって確認されるのは，「正味財産＝期末資本」である[69]。図25を参照。

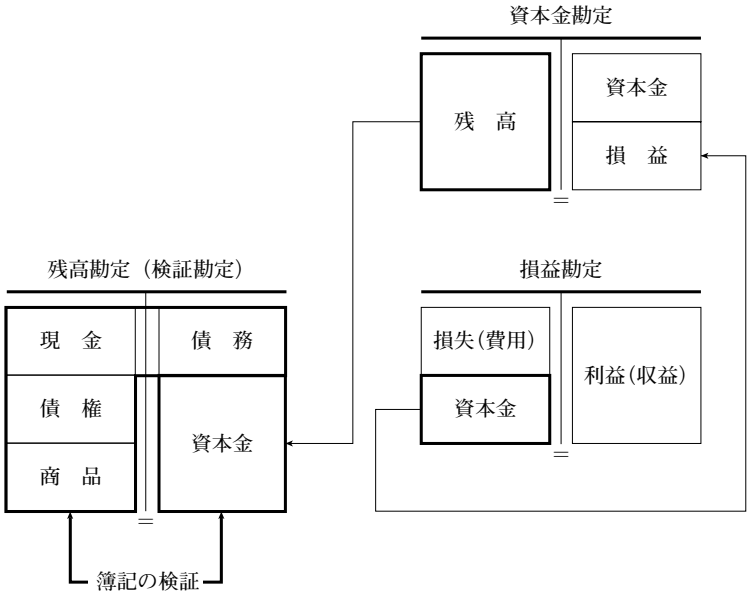


図25

したがって，残高勘定に計算される実在の正味財産が意味するのは，「資本変動の結果」として計算される，企業の決算時の回収資本，これに対して，資本金勘定に計算される期末資本が意味するのは，「資本変動の原因」として計算される，企業の決算時の回収資本，双方が一致するということである。そうであるとするなら，残高勘定によって確認されるのは，「借方合計＝貸方合計」であるのはもちろんであるが，「正味財産＝期末資本」であってこそ，企業の決算時に保有する資本は保全しうるのではなかろうか[70]。

本研究は平成17年度・科学研究費補助金（基盤研究(C)）交付による成果の一部である。

70）参照，拙稿；「簿記の歴史・覚え書」，『商学論集』(西南学院大学)，42巻1・2号，1995年12月，42頁以降。